

# 高梁の 近代化遺産 ⑥

## 吉岡銅山(3) 銅山跡を歩く

高梁出身の小倉忠雄前大原美術館長は、大正時代を日本洋画の青春時代だと話されます。江戸末期から明治初期にかけて輸入された油絵は印象派絵画の洗礼を受け、「ヤニ派」から「紫派」へと変化します。暗かった画風が明るい色彩を帯び、「西洋」を咀嚼した独自のスタイルが確立されていったのは大正期で



溶鉱炉・平炉などで鉱石を溶解・精錬する際に、溶剤の作用によって生じる混合酸化物のかす。スラグ。『広辞苑』第六版。「からみ」には「鏝」をあて、非鉄精錬によって排出された鉱滓を示す。

した。

日清・日露戦争は、わが国の産業発展の起爆剤となりました。日清戦争の戦勝金で建設された八幡製鉄所は、わが国を重工業国に仲間入りさせ、産業の近代もまた大正期に佳境を迎えるのです。日本の西洋絵画と近代産業は同じような歩みを遂げたといえます。

吉岡銅山もふたつの戦争を機に産銅量を飛躍的に増大させました。明治中期から大正期の古写真を見る限り、今からは想像もできないほどの活況を呈していたようです。わが国の銅山は明治末期に最盛期を迎え、第一次世界大戦後の不況と昭和初期の経済恐慌、輸入銅の影響で衰退。吉岡銅山は昭和四七年に、足尾と別子銅山が四八年に休止しました。

銅山跡に共通して見られる特徴は、「からみ煉瓦」を布積みした構造物です。「からみ」とは銅の精錬によって生み出される鉱滓。吉岡銅山跡には、「からみ煉瓦」を積み上げた沈殿槽跡や水路、赤煉瓦やコンクリートの遺構、煙道跡などが点在しています。選鉱場や精錬所の跡、ボタ山、トロツコを通したカルベルト、かつて最も銅鉱石を積み出した三番坑や二番坑も残っています。わが国最大の産炭地であった福岡県の筑豊もそうですが、地下資源で栄えた地が役目を終えたら、そこに産業の歴史があったことさえ伺い知れなくなる程様変わりしてしまいます。

経済産業省は、平成二一年度の「近代化産業遺産群三三」の中に、「わが国の銅生産を支えた瀬戸内の銅山の歩みを物語る近代化産業遺産群」として、吉岡銅山、犬島精錬所と別



トンネルのようなアーチ構造の暗渠。拱渠。鉄道敷設工事などで築堤を造ると地域が分断されるため、カルベルトを設置してその上に土塁を築き、道路や水路を通す。わが国初の鉄道トンネルとなった石屋川トンネルなど阪神間の3橋梁も、カルベルトを用いた開削工法であった。

子銅山を認定しました。笹畝坑道、吉岡銅山遺跡（沈殿槽、ボタ山、精錬所、選鉱所、煙道、三番坑口）、ベンガラ館が対象とされたのです。

犬島精錬所は、吉岡銅山の支山であった帯江銅山を買い取った坂本金弥が創設したもので、別子は、三菱以前に吉岡銅山を経営した住友の銅山でした。共に吉岡銅山とは因縁のある産業遺産です。今こそ、高梁を代表する近代化遺産・吉岡銅山の歴史的・経済的価値を問い直す時です。

（文：吉備国際大学社会学部ビジネスコミュニケーション学科准教授・小西伸彦さん）

編集と発行(毎月15日発行) 高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。